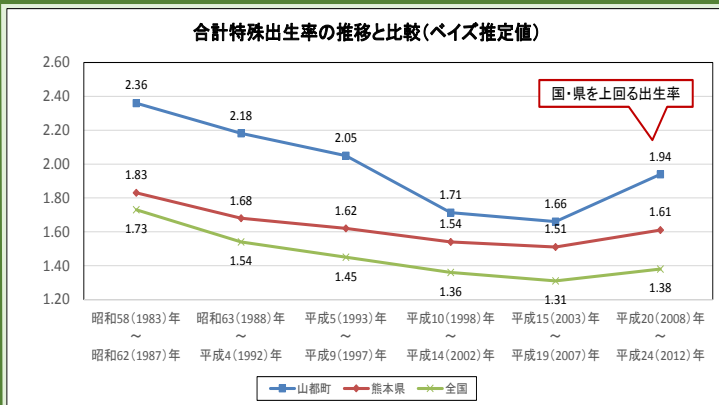
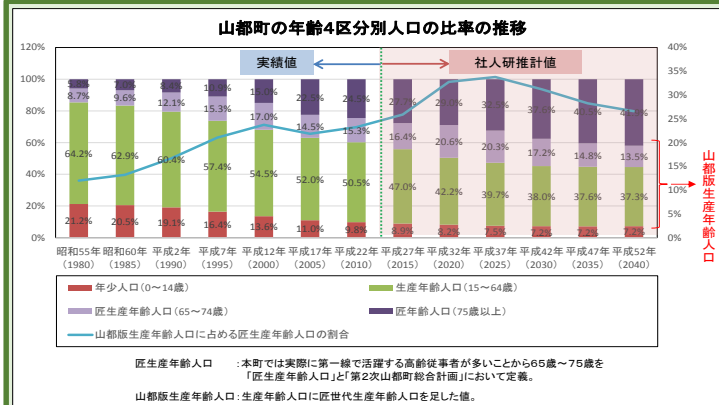
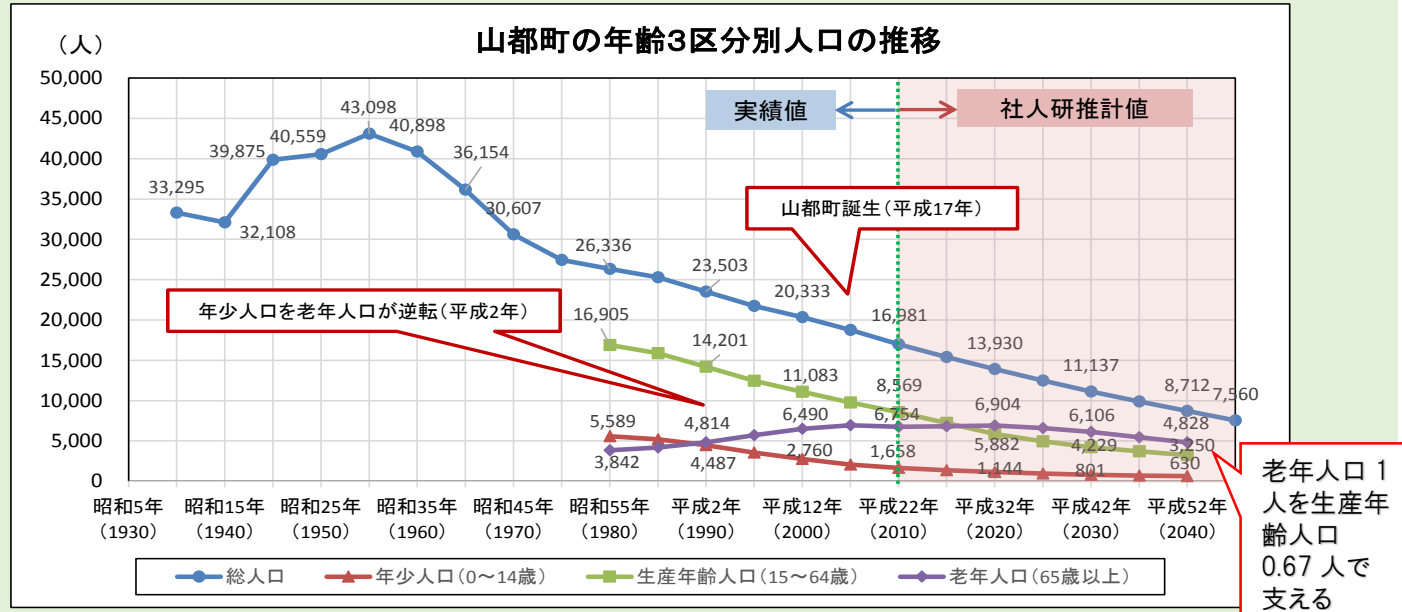


山の都人口ビジョン【概要版】

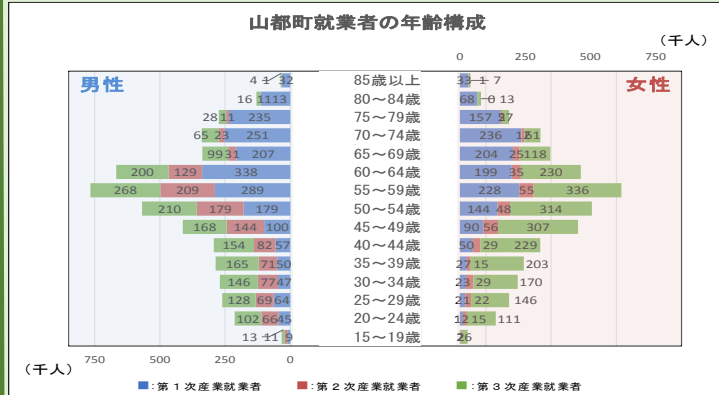
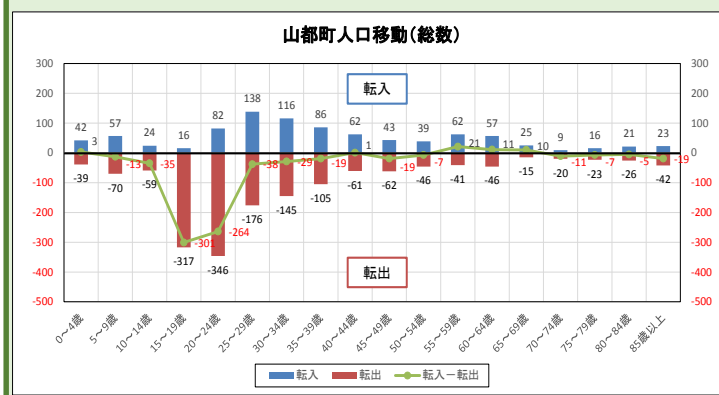
現状分析

- ・2010年10月に行われた国勢調査では、本町の人口は16,981人。
- ・社人研推計によると、2040年には8,712人にまで減少すると推計。
- ・2040年には、老年人口1人を生産年齢人口0.67人で支えることになる推計。



65~74歳の高齢者を加味した匠生産年齢人口も2020年までは増加するが、その後、減少すると推測される。

合計特殊出生率(2008年~2012年)は1.94と、国・県を大きく上回っているが、人口が超長期的に均衡するとされる2.07には達していない。



転入転出状況(2010年)をみると、5~39歳の広い年齢層において転出超過になっている。特に20代の転出超過が年々増加している。

産業別の就業状況を見ると、町の基幹産業である第1次産業の就業率が減少傾向にある。特に、50代以下の就業者数が少なくなっている。

人口の将来展望

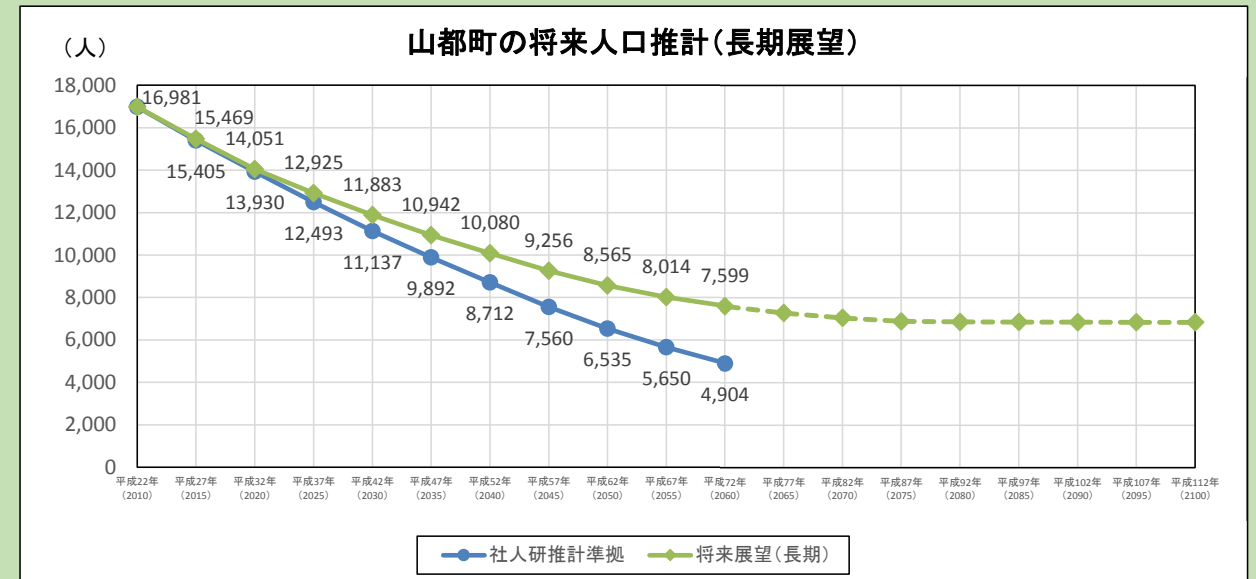
このまま何も対策を講じなければ、2060年の人口は4,904人まで減少。

目指すべき将来の方向

- ①地域特性を活かした雇用の場を創る
- ②地域の魅力を活用し、新たな人の流れを創る
- ③結婚・出産・子育ての阻害要因を解消する
- ④山の都らしい自立した地域づくりを行う

- 合計特殊出生率を、2025年まで現在の1.94
2030年までに2.0、2040年までに2.1
(熊本県と同じ考え)
- 2060年までの45年間に、社会増減を1,121人改善
※対象年齢は0~49歳とする

- 将来展望
2060年の人口 7,599人
長期的には2080年頃から7,000人程度で概ね安定



潜在的サポート人口を加味した人口の将来展望

本町の農村集落としての機能(歴史・文化継承、山林・農地保全等)を維持するためには、人手が充足していないため、本町の潜在的サポート人口(本町に通勤・通学する町外に居住する人々)の5割及びその家族等のほか、元々転出している家族(農家等)が週末等に本町を訪れると仮定し、住民だけでなく本町の魅力を知る人々と良好な関係を築くことで、本町の豊で美しい農村集落を共に維持していく。

